

# 温泉地のまちづくりにおける社会関係資本の効果

金井 雅之

(山形大学)

kanaim@e.yamagata-u.ac.jp

## 1. 問題の所在

温泉観光地のまちづくりに関する既存の事例研究や現場の実践者の報告においてしばしば指摘されるのは、いわゆる「よそ者」や外部とのつながりの重要性である（辻・針原 2008）。たとえば山形県の小野川温泉でまちづくりを牽引し、観光カリスマとして認定された佐藤雄二氏は、つぎのように述べる。

いろいろな魅力が発見されました。しかしそれは、われわれが探したというよりも、外部との接触によって見つかったという感じがしています。たとえて言うなら、それまでは殻の中にいた温泉地が、外部からの圧力によって殻から出たというようなものです。（佐藤ほか 2005: 11-2、強調引用者）

こうした外部とのつながりを「橋渡し型」社会関係資本とすれば、その対概念である「結束型」社会関係資本もまた、まちづくりにおいて重要な役割を果たすと考えられる。なぜなら、共同体における信頼や連帯はまちづくりという協同作業を促進するとともに、潜在的逸脱者（フリーライダー）に対する抑止力にもなりうるだろうからである。

ここで生じる疑問は、橋渡し型資本と結束型資本は果たして両立しうるものなのだろうかということである。結束型資本は上の引用で言うところの「殻」としての側面をもつが、橋渡し型資本はその「殻」をある程度破ることなくしては有効に活用することができないかもしれない。

この謎を解くカギとして、本報告ではまちづくり活動を“時間とともに進展していく動的な過程”としてとらえることにより、2つの社会関係資本がまちづくり活動にどのように役立つのかを検討する。

## 2. データと方法

本報告では、報告者の研究グループが2007年1月から2月にかけて実施した「温泉地域の現状と取組みについての学術調査」のデータを分析する。調査の対象は4つの県の一定条件を満たす温泉地（56か所）の旅館組合と旅館（1515軒）である。回収数はそれぞれ51か所（91%）、779軒（51%）だった。

被説明概念であるまちづくりについては、旅館組合調査で尋ねたまちづくりのための独自計画の策定状況を用いる。回答選択肢は(a)「今のところ策定の計画はない（10か所）」、(b)「現在、計画・検討中である（29か所）」、(c)「ある（9か所）」の3つで、無回答が3か所あった。独自計画の策定は不可逆的な過程だから、(a)~(c)はある時点で見たとときのまちづくりの進展状況とみなすことができる。そこで、(0) まず a すなわち策定の計画すらない温泉地はそれ以外の温泉地と比べてどういう特徴をもつかを確認した上で、(1) a から b への移行、(2) b から c への移行にはどういう条件が必要かを検討する。

つぎに説明概念である2種類の社会関係資本については、結束型は“旅館の館主の温泉地内の他の旅館関係者との飲食頻度”の温泉地ごとの平均値が全温泉地での中央値より大きいかどうか、橋渡し型は旅館組合が“外部講師による講演会”を前年に1回以上行ったかどうかを用いる。

表1 使用する変数

	変数名	QCA	説明 (⇔参照カテゴリー)
従属変数	(0) <計画なし>		策定予定なし (⇔ 策定中+策定済み)
	(1) <計画中>		策定中 (⇔ 策定予定なし)
	(2) <計画完成>		策定済み (⇔ 策定中)
独立変数	<結束型>	I	温泉地内旅館関係者との飲食頻度多い
	<橋渡し型>	E	外部講師による講演会実施

### 3. 分析結果と議論

分析は、質的比較分析 (QCA) によっておこなった (表2)。

表2 3つの従属変数に対する質的比較分析の結果

従属変数	最小積和形	意味
(0) <計画なし>	i	<結束型>が存在しない
(1) <計画中>	I	<結束型>が存在する
(2) <計画完成>	Ei	<橋渡し型>が存在し、<結束型>が存在しない

まず、(0) <計画なし>の最小積和形はiすなわち<結束型>社会関係資本が存在しないことである。これに対し、(1) <計画中>の最小積和形は<結束型>社会関係資本が存在することである。つまり、独自計画の策定予定すらない温泉地の特徴は結束型資本が欠けていることであり、逆にこれが存在することが策定予定なしから策定中に移行するための必要十分条件になっている。また、ここでは橋渡し型資本の有無は結果に影響を与えていない。つまり、まちづくりを始めようとする段階では橋渡し型資本の有無は重要ではない。

つぎに、(2) <計画完成>の最小積和形はEiすなわち<橋渡し型>が存在し、<結束型>は存在しないことである。つまり、まちづくり計画が策定中から策定済みに移行する段階においては、橋渡し型資本の存在が必要になる。一方で、この段階では結束型資本はむしろ存在しない方がよい。この結果についてはいろいろな解釈が考えられるが、ひとつの解釈は冒頭で示した結束型と橋渡し型とのトレードオフであろう。

以上をまとめると、温泉地のまちづくりにおいて、まずとにかくまちづくりを始めてみようという段階では結束型社会関係資本が、まちづくりのプランを具体的に検討し完成させていく段階では橋渡し型社会関係資本が、それぞれ重要な役割を果たしている。これは、2種類の社会関係資本が時間の経過とともに役割を交代しつつ、複合的に作用してまちづくりを促進していくことを示唆している。

#### 文献

- 金井雅之. 2008. 「温泉地のまちづくりを支える社会構造」『社会学年報』37: 印刷中.
- 温泉地域活性化研究プロジェクト. 2008. 『温泉地域の現状と取組みについての学術調査 基礎集計表・コードブック』.
- 佐藤雄二・濱田賢治・山下芳夫・石森秀三. 2005. 「観光地開発とその関係者の役割をめぐって—山形・小野川温泉の取組みから—」『運輸と経済』65(6): 4-12.
- 辻竜平・針原素子. 2008. 「ネットワーク理論から見た野沢温泉の活性化—観光関係者へのインタビューをふまえて—」籠谷和弘(編)『市民活動の活性化支援の調査研究—秩序問題的アプローチ—』平成17~19年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書: 125-34.